

令和8年2月24日

名張市立桔梗が丘東小学校

学校長 川合 哉 様

名張市立桔梗が丘東小学校 学校運営協議会

会長 福森 讓

### 令和7年度 学校運営協議会評価書

#### 1. 自己評価書全般について

##### (1) お互いに認め合える集団づくり、居場所づくり

児童アンケートで「学校へ行くのが楽しい」90.8%、「友だちのよいところをみつけることができる」97.6%、このようにクラスメートお互いに認め合える気持ちで登校できている。また、学校生活においてもそれぞれ安心して過ごせる居場所づくりができている。このことは、本校の一番よいところである。

##### (2) 主体的、協働的に課題を解決する力、学習意欲の向上

児童アンケートで「授業の内容がわかる」と回答した児童の割合が92.3%であった。学習する力は着実についているものとする。一方児童アンケートで「学級では、自分の意見や思ったことが言える。」肯定的な回答は若干増えたとはいえ82.1%と他の設問回答に比して肯定的な回答は低い。主体的に自分の考えを主張する意欲と考えを整理する力がもう少しつけばと考える。

##### (3) 家庭地域と連携して信頼される地域とともにある学校づくり

保護者アンケートにおいて「学校は子どもたちが安心・安全に過ごせるよう地域との協働に努めている」への肯定回答が94.2%であり、保護者の学校への信頼は厚い。また、地域もそれに応えて自治会・ボランティア等の子どもに対しての活動が活発である。

#### (4) コミュニティスクールの推進

桔梗が丘東小学校では、あそびつくす in 東小実行委員会が地域においてボランティア・保護者・自治会等を中心に組織されており当学校区でのコミュニティスクール活動の中心となっている。休日や夏休み等の児童の居場所づくりとして成果をあげている。また、登下校の安全見守り、学校の環境整備など、学校ボランティアの献身的な努力によって学校・児童が守られている。このように、当校のコミュニティスクール活動は活発であり、児童・保護者にとって安心で有意義な活動となっている。

#### (5) 小中一貫教育について

桔梗が丘地区及び蔵持地区における小中一貫教育は、1中学校に4小学校という大変難しい形態での取り組みとなっているが、小中教師間の綿密な連携により、それぞれの学校での授業の進め方に一貫性をもたせる努力をされており、中学での生徒の学業にも成果がみられ、困難ななかでの取り組みとして評価できるものである。

#### (6) 教職員の働きやすい環境づくり

働き方改革として、教職員の残業時間の軽減や休日勤務の縮小など管理職を中心とした努力によって働きやすい職場環境が保たれつつあるものとする。

## 2. 学校から提示された「課題」や来年度の方向性について

学校での授業の進め方及び保護者への対応等については、重点的な取り組みで示されているように来年度も進めていただきたい。

学校運営協議会のあり方については、委員そのものが学校の運営の在り方とともにコミュニティスクール推進、学校ボランティアの課題等今少し実体験的に議論し、地域を動かす力となっていくことを目指していくことも必要と考える。

## 3. その他

### (1) 児童がゲームや SNS をすることについて

このことは、学校での問題ではないが、子どもが自己制御できず長時間ゲームや SNS にはまってしまい、昼夜逆転から不登校となってしまう事例が中学等で見られるとのことである。これは、急に中学生になってそうなのではなく、小学生のころからその兆候は見られるものと思われる。難しい問題ではあるが、現代社会では避けてとおれないことであり、児童・保護者啓発の機会を多く設けることは必要と考える。

### (2) 学校ボランティアの高齢化

児童の登下校の安全安心見守り、学校環境美化等は学校ボランティアによって支えられている。しかし、このボランティアも高齢化しており後継者も不足している現状は、将来を見据えたとき看過できない。どのようにしていったらいいのか、ボランティアが一人二人とリタイアしていくまでに検討を進める必要があると考える。